



5月17日/人吉市大町2丁目民衆広場

統一地方選挙後、初めての定例会は六月六日に開会し、二十一日間の日程を終え、二十六日に閉会しました。

今回の改選で、女性議員が五人となり、共産党が議席を失い、議会の景色が大きく変わったように感じます。

定例会においては、TSMCに関連した地下水の問題、周辺道路の渋滞対策、新工場付近の新たなイン

義を見てせざるは勇なきなり

徹底した治水対策で
生命・身体・財産を守り抜く

ターチェンジ設置、台湾との交流促進等など様々な課題が取り上げられたほか、熊本地震からの創造的復興の課題や、コロナ感染症五類移行後の対応、持続可能な農業、有機フッ素化合物による地下水汚染対策、運動公園のアクセス改善、熊本空港の利用、国際スポーツ大会など、喫緊の課題について議論がなされました。

また、今定例会では三つの特別委員会が設置されました。特に、地域活力創生特別委員会では、「TSMC進出に係る県内波及効果」、海の再生及び環境対策特別委員会では「再生可能エネルギー導入促進」について委員会が引き続き審査や調査を行うことになりました。

高速交通ネットワーク整備推進特別委員会を含め、本県の抱える大きな課題であり、今後さらに熱心な議論が行われることとなります。

さて、今年も台風シーズンがやってきました。強い雨が降るたびに三年前の四月の選挙がよみがえります。私は昨年の出馬の時に、流水型ダムを含めた緑の流域治水に道筋をつけ、安全安心の上にまちづくりを進めていくことを訴えて当選させていただきました。

地域住民の生命・身体・財産を守ることが政治の要諦です。色々な理不尽なことありますが、応援していただいた皆様の思いを胸に秘めて、できることは全てやる覚悟で活動してまいります。引き続きよろしくお願いいたします。



4月に行われました統一地方選挙、16年ぶりの選挙戦となりましたが、お陰様で当選させて頂き、6期目の活動をスタートしております。前例にとらわれず次世代に道筋をつけるべく精進してまいります。



公式YouTubeチャンネル
選挙戦ダイジェスト動画

▼編集後記

令和2年7月豪雨から早3年が過ぎ、先日は犠牲者追悼式が静かに営まれました。未だ復旧・復興の道半ばですが苦勞されている方も多く心を痛めています。今後も行政の治水対策や復興への迅速な対応を願っています。人の心はあふ溢る箱のように、詰められるものの量が限られています。その中何を感じるかで生き方が変わってくるものです。人吉市出身のタレント内村光良さんが手がけた映画「星が降った」は復興に向けた未来への希望を描いた作品。熱演した若者たちのひた向きの姿勢に多くを学ぶことができます。<K.T>

この会館のお問合せは

溝口幸治事務所
〒966-0004 人吉市九日町B3 2F
tel 0966-22-5800
fax 0966-22-5802
http://www.k-mizoguchi.com
E-mail:office@k-mizoguchi.com



公式web

みぞぐち幸治後援会 所在地



“緑の流域治水”の見える化の推進

- 国、県、流域市町村、企業、住民が協働し、流域全体の総合力で安全・安心の実現を目指す、「緑の流域治水」の取組みについて、広く住民の皆様に分かりやすく伝えるため、本年3月、県において、取組みを解説する動画やパネル、パンフレット、さらに球磨川流域の立体地図を作成されました。
- 私も、動画やパンフレットなどを見ましたが、球磨川流域の地形や河川の特徴、そして「緑の流域治水」の取組みが非常に分かりやすく解説されています。是非、多くの方々にご覧いただき、流域全体での取組みにつなげていきたいと考えています。

動画 (YouTubeで配信中)



You Tube掲載動画のQRコード

全体統合版



[1分57秒]

分割版 (全体統合版を3パートに分割)

①球磨川の地形の特徴



[2分2秒]

②洪水発生メカニズム



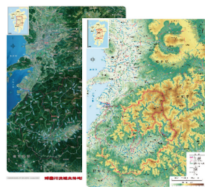
[2分27秒]

③緑の流域治水の取組み



[2分28秒]

立体地図



パネル・パンフレット



パンフレットは人吉市役所・県振興局で配布しています

- 現在、この動画等を活用して、人吉第一中学校や球磨中央高校への出前授業など児童・生徒への啓発活動、市町村の防災担当者への説明などを実施しています。
- 出前授業を受けた子ども達からは、「災害に備え自分にできることを考えるきっかけになった」「流域でたくさんの治水の取組みをしていることを学んだ」などの声があり、流域の治水に対する事前の防災への備えを学ぶ貴重な機会となりました。引き続き、県と協力して、様々な機会を捉えて、「緑の流域治水」の取組みを発信して参ります。



人吉第一中学校での出前授業

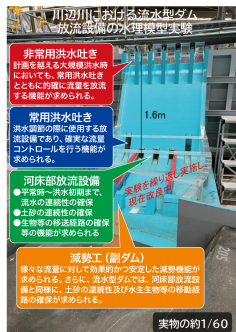


人吉市防災会議での説明

新たな流水型ダムの進捗状況

- 新たな流水型ダムについては、現在、国において、環境アセスメントの手続きが進められています。6月5日には、国の「流水型ダム環境保全対策検討委員会」が開催され、流水型ダムの大型水理模型実験を視察されるとともに、ダムの施設の検討状況等について審議されました。
- 私も、5月30日に国立研究開発法人土木研究所（茨城県つくば市）を視察し、大型水理模型実験を見学しました。流水型ダムの環境影響の最小化に向けて、極限までダムの構造を検討されていることが分かりました。

引き続き、国と連携し、新たな流水型ダムの早期完成を目指して参ります。



非常用洪水吐き

計画を超える大規模洪水時においても、非常用洪水吐きとともに的確に流量を放流する機能が求められる。

常用洪水吐き

洪水調節の際に使用する放流設備であり、確実な流量コントロールを行う機能が求められる。

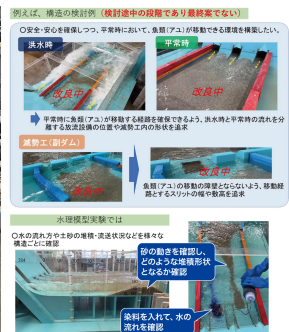
河床部放流設備

・平常時～洪水初期まで、水の連続性の確保
・土砂の連続性の確保
・生物等の移送経路の確保等の機能が求められる。

減勢工（副ダム）

様々な流量に対して効果的に減勢した減勢機能が求められる。さらに、流水型ダムでは、河床部放流設備と同様に、土砂の連続性及び水生生物等の移動経路の確保が求められる。

実物の約1/60



例えば、構造の検討例（検討中の設備であり最終案でない）

洪水時

○安全・安心を確保しつつ、平常時において、魚類（アユ）が移動できる環境を構築したい。

平常時

・平常時に魚類（アユ）が移動する経路を確保できるよう、洪水時と平常時の流れを分離する放流設備の位置や減勢工内の形状を追求

減勢工（副ダム）

・減勢工（副ダム）の形状を追求

河床部

・魚類（アユ）の移動の障害にならないよう、移動経路とすべり面の幅や高さを追求

水理模型実験では

○水の流れ方や土砂の堆積・流出状況などを様々な構造で確認

砂の動きを確認し、どのような堆積形状となるか確認

・染料を入れて、水の流れを確認

雨庭（雨水貯留・浸透施設）の取組み

- 「緑の流域治水」の一環として、大学や民間企業と連携して、『雨庭※』の整備に向けた取組みも推進しています。既に南校高校や球磨地域振興局、肥後銀行免田支店で整備されています。
- 「緑の流域治水」の推進に向けては、河川整備などのハード対策だけでなく、様々な関係者による流域一体となった取組みが重要です。引き続き、流域全体で取組みが推進されるよう、周知啓発に努めて参ります。

※「雨庭」とは、屋根などに降った雨水を下水道に直接放流することなく一時的に貯留し、ゆっくりと地中に浸透させる構造を持った緑化空間



県立南校高校の雨庭
(R4.10整備)



球磨地域振興局の雨庭
(R5.3整備)



肥後銀行免田支店の雨庭
(R5.4整備)